



当時のマグナグループが
気合を入れて作ったスタンド



クランペンボルグで
優勝馬が引き上げてくる様子



クランペンボルグ競馬場の入場門

世界旅打ち気分

●第11回・欧洲マニアック競馬場紹介

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/> の
#グリーンファーム会報#2019年1月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

こか分かるか不安だ。たたか、バスには馬主とおぼしき紳士が乗つていて、彼が降りる支度を始めたころには競馬場が目に入ってきた。

そもそも、この競馬場はけつこうな郊外というか田舎で、畠しかない。ようなどろに突然存在する競馬場である。いまはどうなのかと、グーグルマップで見てみたが、いまも畠の中だった。

このマグナレーシン、その名の通り当時のマグナグループがもともとあった競馬場を買収し（新設だったかもしれない）、カジノと複合施設化したものである。現在は一口オーナークラブとなっている同社だが、いまでも競馬場の名前は

なにぶん13年前の話なので記憶も定かではないが、写真を手がかりに思い出すと、レースはハーネスと平地の両方を同一開催日に実施していたようである。パドック・装鞍所は小じんまりしているが、すべて新しく作つたハーデなので綺麗だった。ターフビジョンのようなものもあり、パドックやウイナーズサークルにはテレビの中継レポーターのようなお姉さんも見かけた。馬券売り場は通常の口頭窓口のほかに当時としては先進のセルフサービスもあり、「マグナグル

いる。そのほかに厩舎見学や乗馬学校の朝練見学(これがかなり高度な技術を見る事ができる)などもあって、馬好きには必見だ。
さらにウイーン市内や観光名所には観光馬車も多い。シエーンブルン宮殿の周りを馬車で回ることなどもできる。とにかく馬好きが楽しめる国ではあるので、そういうた
観光とあわせて競馬場を訪れてみるのもよさそう。13年前に比べるとスマートが進化しているので、ドイツ語の国を旅するのもそりしこうではないはずだ。

とうだが、お許しいただきたい。
もうひとつ紹介する競馬場
は、オーストリアのマグナレーシン。
私が訪問したのは2005年の10
月であった。
エリコも首都ウィーンから日帰り
で行ける場所だが、バスでそれなり
の距離を走ったように記憶してい
る。宿泊していたホテルでコンシェ
ルジエに競馬場の住所を見せ、バス
乗り場と乗るべきバスを教えても
らった。「イーブライシユドルフ」と
いうところで降りると言われてそ
こが分かるか不安だったが、バス
には馬主とおぼしき紳士が乗つて
いて、皮が革張った椅子を占めて

変わらないようだ。
当時は競馬場とカジノの複合施設化、RACINOというものが目新しい存在で、それを見てみようと思い立った次第である。開発する側もかなり気合が入ついたのだろう。立派なグランドスタン
ドが建つていて、その中がカジノや
レストラン、会議室などになつてい
た。場所が場所だけに地元需要と
いうものがどれだけあるのか心配
だが、ネットで見るとまだ競馬場
のホームページがしつかり残つてい
て開催も行われているようだし、
存廃うんぬんの話にはなつていない

「一匹、気合い入つてるな」と感じたのを覚えてる。
現在の競馬場公式サイトを見ると、6、7、8、12月は開催が無く、それ以外は月によって3～10日ほどレースが行われているようだ。また、現在も平地とハーネスの両方を実施しているとのことである。競馬場のサイトにはウイーンから20分と書いてあるが、タクシーだとそのくらい、バスだと30～40分というところか。

「車いす自転車競技における資金を賭けての競技は1970年代に廃止になってしまったのだが、私がデンマークに行こうと決めた2000年代初頭には、まだ当時のバンクと、車券売り場の跡などが残っており、海外研修を行った日本自転車振興会（JKA）の職員さんもそれを見たことがあるとの情報を得ていた。公営競技マニアとして、廃墟でもいいから（自転車競技そのものは続いているはずだが）一度見ておこうと思い、現地を訪れた次第である。いま確認した

スカンジナビアオープンというG3レースが組まれている日程で行つたので、競馬のほうはしっかりと見れることができた。

いま調べると、私が見に行った年はスカンジナビアオープン優勝馬は当時3歳馬のクロノダイルダンディーという馬だった。確かにデノマーク調教馬として欧洲のあちこちにも遠征していたダメマストがやや衰えかけた頃で、3着か4着に入っていたように思う。

実はこのデノマーク訪問時、私は空港から市内に向かう列車で置き引き被害に遭つており、デジカメを紛失していた。デノマーク製の「写ルンです」のようなものを買ってそのフィルムをデジタル化してもらつたので写真の画質がいまひ

今回は、ちょっと普通の日本人競馬ファンは行かないであろう競馬場を2箇所御紹介したい。ともにヨーロッパの競馬場である。

ひとつめは、デンマークの首都コペンハーゲン近郊にあるクランベンボルグ競馬場。コペンハーゲンから北に伸びる近郊列車に乗ると一本でこのクランベンボルグまで来ることができる。

そもそもなぜ私がこの競馬場を訪れたのかからお話ししなくてはならない。実はデンマークには昔、競馬だけでなく競輪もあった。

クランベンボルグより少し手前の駅、オルドラップで降りてバンクを探した。道行く人に聞いてみると皆さん英語を理解してくれ方が角は分かったのだがあるおじいさんから衝撃の一言が。「バンク、取り壊しになつたよ」

私が行った1~2年前にバンクは取り壊され、ただの宅地になつていたのである。近所の方に「テ・ノ・マーク式競輪」があつた時代の話を聞くことなどはできたが、思いつきり空振りの訪問だったのである。

ただ、さすがに私も「競輪場跡」

のモニターなどは充実していた。もちろん表示はテキストマーク語なのだが、オズズ画面を見ればなんの暗示式かは想像がつくもの。私は当時デジマーク語のマークカードを塗ることにも成功し、人間やればできることものだと思ったのを覚えている。パドックも木々が植わっているというよりは木々に包まれている。自然に溶け込んだ雰囲気と、開催日を心待ちにしていた入場者の明